

※ 解答は、《解答欄》に書きなさい。

ポイント

- ・ 俳句の形式や決まりを知る。
- ・ 季語に着目して、俳句に詠まれた情景を味わう。
- ・ 伝えたい事柄にふさわしい語句を選ぶ。

次の文章は、中村さんが俳句について述べたものです。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

【文章】

正岡子規の句に、次のようなものがあります。

A 赤とんぼ筑波に雲もなかりけり

B 松山や秋より高さ天守閣

今回の俳句づくりでは、子規が提唱した「写生」を意識しました。

夜更けまでえんぴつの音虫の声

夜、机に向かっていると、家の中が静寂に包まれていることに気がつきました。聞こえているのは僕がかしているえんぴつの音と、かすかな虫の声だけです。二つの小さな音が、夜の静けさをいつそう強めているように感じました。そこで浮かんだのが、この俳句です。

句を何度か読み返してみると、「えんぴつの音」と「虫の声」、二つの音が並んでいて、どちらが句の中心なのかはつきりしないことに気がつきました。強調したいのは「えんぴつの音」の方だったので、

秋の夜にえんぴつの音響きけり

と直しました。Aの句同様、「切れ字」を使ってまとめたことで、ずいぶん引きしまった感じになりました。しかし、「響きけり」では、えんぴつの音がかなり大きい音のように感じられます。

このとき僕は、ノートにえんぴつで英文を書き写していました。その様子を思い出しながら、えんぴつの音をどう表せばしっくりするのか考えました。自分なりに考えて、できあがったのが次の句でした。

走らせるえんぴつの音秋の夜

「えんぴつで書く」を「えんぴつを走らせる」と表し、「走らせる」を最初にもつてくることで、その夜は、せわしくえんぴつを動かしていたことを強調しました。また、修正前は、「秋の夜にえんぴつの音が響く」という一続きの内容でしたが、この句は、「走らせるえんぴつの音」で一つの内容が終わり、①句を切ることで、②句を切ることもできません。「えんぴつの音」の後に間が生じることで、サラサラというえんぴつの音の余韻が残ります。

最後に、この句の季語は、「秋の夜」です。②秋の季語は他にもたくさんあるので、次は、別の季語を使ってみたいと思います。

1 — 線部①について、「走らせる…」の俳句の「句切れ」の位置に、次のように「/」を入れます。これにならない、A、Bの俳句の句切れの位置を解答欄に示しなさい。

走らせるえんぴつの音/秋の夜

2 次のアからカまでの中から—線部②「秋の季語」に当たるものを三つ選び、その記号を書きなさい。

ア さわやか イ うららか ウ 風光る エ 山築う オ 梨 カ 夜食

【三ページ】

- 3 次は、中村さんの推敲の過程をまとめたものです。(a) (b) に入る言葉を、【文章】中からそれぞれ二字で抜き出して書きなさい。

夜更けまでえんびつの音虫の声

- 気になった部分…「えんびつの音虫の声」
- 気になった点……二つの音のうち、どちらに句の (a) があるのかがはっきりしない点

秋の夜にえんびつの音響きけり

- 気になった部分…「響きけり」
- 気になった点……えんびつの音が大きい感じがして、その時の (b) にそぐわない点

川島さんは、一分間スピーチで俳句を取り上げました。次は、その内容です。

【スピーチ】

赤黄茶並木は落ち葉の展覧会

これは、私が最初に思いついた句です。様々な色の落ち葉であふれた並木道を表現しました。しかし、読み返しているうちに、どうもこの句は落ち着きがないなあ、と感じるようになりました。

あれこれ考えてもよい修正案が思いつかなかったため、一週間後の日曜日に同じ並木道に行ってみました。すると、風景が一変していて、茶色の落ち葉が目立ち、落ち葉の数も減っていました。そこで、

行く秋や茶色ばかりの並木道

という句に作りかえました。最初の句よりも落ち着きのある、俳句らしいリズムをもった作品ができたと思います。

- 4 【スピーチ】の——線部、川島さんが「この句は落ち着きがないと感じた」原因について、あなたはどうか考えますか。次の条件にしたがって書きなさい。

〈条件〉

- 「音数」に着目すること。
- 三十字以上、四十字以内にとどめて書くこと。

シート 16 解答欄

第 学年 組 番 氏名

1

A 赤 と ん ぼ 筑 波 に 雲 も な か り け り

B 松 山 や 秋 よ り 高 き 天 守 閣

2

()	()	()
-----	-----	-----

3

a	<table border="1"><tr><td> </td></tr></table>		b	<table border="1"><tr><td> </td></tr></table>	

4

↓ 1111 から書き出してください。

シート 16 正答例

- 1 A 赤とんぼ／筑波に雲もなかりけり
B 松山や／秋より高き天守閣
- 2 ア・オ・カ (順不同)
- 3 a 中心 b 様子
- 4 (例) 音数が「四、八、六」となっていて、「五、七、五」の形式に合わないため。

(35字)